

自治体の現状と課題

中学校数	20校	生徒数（5/1現在）	10,894人
運動部活動数	105部	担当課	学校指導課
コーディネーターの人数	1人	市町村の方針	地域移行
運営団体	教育委員会		
地域移行した種目	全種目		
地域指導者の人数	0人	地域指導者への謝金の金額	円/時
地域クラブへの参加費	0円/月	部活動の休日の活動回数	4回/月
部活動指導員の人数	184人	部活動指導員の報酬	1,510円/時
外部指導者の数	0人	外部指導者への謝金の金額	円/時

・現在、「岡崎モデル3段階プラン」の第1段階である「子供の活動の移行」は、3年目を迎えている。これまで、全教職員・生徒・保護者に対して段階的かつ計画的に周知を行ってきた結果、移行はおおむね円滑に進んでいると考えている。昨年度までに、弓道・アーチェリー・ソフトボール・柔道・ハンドボールなどの種目が地域ブロック部活動へと移行し、この夏にはすべての種目が地域ブロックへ移行を完了した。現在は、まず休日にブロック活動が開始されており、今後は環境の整備や保護者の理解が得られたブロックから、平日の活動も順次実施していく予定。

・地域移行進める上で課題は、指導者への報酬、備品・消耗品費等に対し、市費や学校予算等、現在ある財源をどのように運用すれば、地域ブロック部活動が円滑に進み、市内の全ての子供の健やかな成長につながるかを模索する必要があります。

地域移行・地域連携の取組・成果

・これまで開催された新人戦が「岡崎市中学生体育大会 Autumn CUP」に変更され、現行の地域ブロック部活動として初めて開催された。その際、バレーボール日本代表キャプテンで岡崎市出身の石川祐希さんに、優勝カップや準優勝楯の題字を書いていただき、子供たちの大きな励みとなった。この大会では、すべての中学校2年生が個人戦に出場できることや、ブロックから複数のチームが出場できたことに加え、自校にない種目に参加する生徒の姿が見られるなど参加機会を広げることにつながった。

・課題として見えてきているのは、活動場所の確保である。参加人数の増加により、活動場所が手狭になり練習に支障が出ているケースもある。一部の種目では、定期的に公共施設を利用し、大会同様の環境の中で活動時間が確保でき、充実した練習が行われているとの声も聞いている。現状では学校施設の利用を基本としているが、今後は関係部局の協力を得ながら、公共施設の有効活用を進めていきたい。

運営体制図

◆推進体制



自治体の現状と課題

中学校数	20校	生徒数（5/1現在）	10,894人
文化部活動数	21部	担当課	学校指導課
コーディネーターの人数	1人	市町村の方針	地域移行
運営団体	教育委員会		
地域移行した種目	吹奏楽、オーケストラ、合唱		
地域指導者の人数	0人	地域指導者への謝金の金額	円/時
地域クラブへの参加費	0円/月	部活動の休日の活動回数	4回/月
部活動指導員の人数	18人	部活動指導員の報酬	1,510円/時
外部指導者の数	0人	外部指導者への謝金の金額	円/時

・地域移行の取組の現状は、「岡崎モデル3段階プラン」の第1段階「子供の活動の移行」が3年目を迎えている。各地域ブロックごとに顧問同士で各校の現状を伝え合い、活動方法や活動時期などを決めている。8月末よりブロック活動開始期間となったが、コンクールや学校行事による学校単位の活動が継続している学校もあるため、各ブロック内の状況に合わせて日時や内容を決めるなど、柔軟に活動できるようにしている。月に1~2回ほど、週末に集まって活動する予定で進んでいる。

・地域移行を進める上での課題は、活動場所と環境整備、生徒の移動と楽器に関わる費用である。現在の活動場所は学校であるが、ブロックに所属する生徒全員が集まると大人数になって活動場所に入りきらず、活動が困難になる状況がおきている。また、十分な数の楽器が揃わないこと、貸出楽器や共用楽器の修繕費をどこから捻出するか、さらに、活動場所への保護者送迎における駐車場問題など、実際に活動して明らかになった課題が複数ある状況である。

地域移行・地域連携の取組・成果

- これまで市内に225あった部活動は、地域ブロックごとに再編成され、令和7年度8月より116の地域ブロック活動として新たにスタートした。
- 各ブロックには「岡崎CENTRAL」「岡崎NORTH」「岡崎WEST」など、地域性を活かした名称が付けられ、地域に根ざした活動が展開されている。
- 課題として見えてきているのは、活動場所の確保である。参加人数の増加により、活動場所が手狭になり練習に支障が出ているケースもある。一部の種目では、定期的に公共施設を利用し、コンクール同様の環境の中で活動時間が確保でき、充実した練習が行われているとの声も聞いている。現状では学校施設の利用を基本としているが、今後は関係部局の協力を得ながら、公共施設の有効活用を進めていきたい。

運営体制図

◆推進体制



自治体の現状と課題

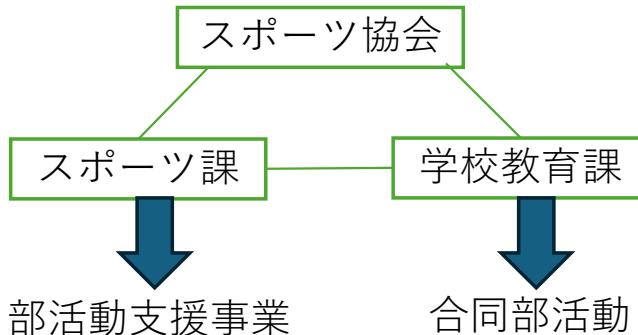
中学校数	5 校	生徒数（5/1現在）	2004人
運動部活動数	51部	担当課	学校教育課・スポーツ課
コーディネーターの人数	0人	市町村の方針	地域連携
運営団体	教育委員会		
地域移行した種目	なし		
地域指導者の人数	0人	地域指導者への謝金の金額	0円/時
地域クラブへの参加費	0円/月	部活動の休日の活動回数	3～4回/月
部活動指導員の人数	0人	部活動指導員の報酬	0円/時
外部指導者の数	130人	外部指導者への謝金の金額	平日：1500円/回 休日：3000円/回

- 年々生徒数は少しづつ減少しているが、大きな問題はない。ただ、市外の地域クラブ等に参加している生徒が増え、学校単独での部活動が困難な種目も始めている。
- 地域移行の取組の現状は、あまり進んでいないが、運営主体は、まずは学校を軸に進めている。今年度、市のロードマップを作成し、方向を示した。どの種目も、令和9年度の新チームから合同部活動（北ブロック、南ブロック）の実施をしていく方向で動いている。その後は、市で一括とし、上位大会を目指すチームと楽しむチームの選択していくことを検討している。
- 協力してくれる小学校の教員を部活動指導員としていく方向で検討している。
- 課題は、受け皿となり得るスポーツ協会や地域スポーツクラブにどのように移行していくかである。スポーツ協会の方には、部活動支援事業として、平日の夜間に活動していただいているので、スポーツ協会を軸に移行を進めていく形になると思う。
- 部活動にない種目（ダンス等）をどのようにしていくかも課題の一つである。

地域移行・地域連携の取組・成果

- スポーツ協会の方との連携を図ることで、部活動外部指導者について、どの種目においてもある程度の人材を確保することができた。
- 令和6年度より、拠点校部活動を4種目（R7年度より5種目）で実施している。
自校にその種目がない生徒の受け皿となっている。
- 令和7年度の新チームより、他の部活動に先駆けて、サッカー部において合同部活動を実施していくことになった。令和8年度から、野球部、ソフトボール部、ソフトテニス部、剣道部で合同部活動（北ブロック、南ブロック）を実施していく。
- 拠点校部活動や合同部活動の実施に伴い、連絡手段の構築が必要なため、連絡ツールとして「Team Hub」のアプリ（無料）を検討している。

運営体制図



自治体の現状と課題

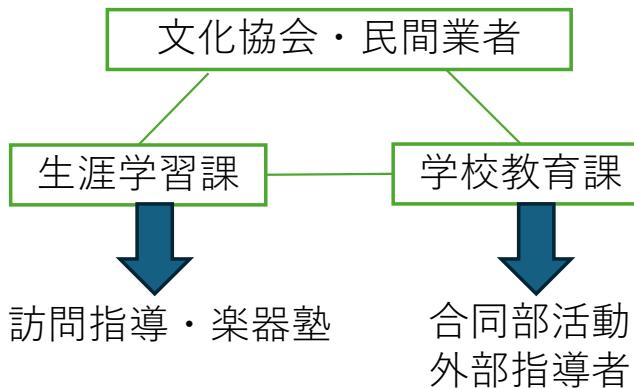
中学校数	5 校	生徒数（5/1 現在）	2004人
文化部活動数	13 部	担当課	学校教育課・生涯学習課
コーディネーターの人数	0 人	市町村の方針	地域連携
運営団体	教育委員会		
地域移行した種目	なし		
地域指導者の人数	0 人	地域指導者への謝金の金額	0 円/時
地域クラブへの参加費	0 円/月	部活動の休日の活動回数	2～3 回/月
部活動指導員の人数	0 人	部活動指導員の報酬	0 円/時
外部指導者の数	20 人	外部指導者への謝金の金額	平日：1500円/回 休日：3000円/回

- 年々生徒数は少しずつ減少しているが、大きな問題はない。吹奏楽部以外は、平日の活動のみ。吹奏楽部は、担当できる顧問も限られているため、担当者への負担が大きくなっている。
- 地域移行の取組の現状は、進んでいない。今年度、市のロードマップを作成し、方向を示した。R8年度から、吹奏楽部においては、休日の部活動を廃止し、市の吹奏楽団の活動に参加したい生徒が参加することも検討している。
- 課題は、受け皿となり得る市民吹奏楽団や民間団体、文化協会にどのように移行していくかである。吹奏楽は、民間の業者委託も視野に移行を進めているが、練習場所の確保も課題となっている。市内の公共施設を拠点とすると、防音があり、大人数を収容できるが、一般市民の利用もあるため、回数に限度がある。現状、学校を利用してるのが最善手であるが、セキュリティ面と大型楽器をどのように運搬するかも課題となっている。

地域移行・地域連携の取組・成果

- 吹奏楽部は、土曜日に外部指導者による専門的な指導を受ける機会を確保した。市民吹奏楽団による訪問指導や合同演奏会の実施を行ったり、専門家の指導を受けられる楽器塾を開校したりした。
- 令和7年度より、楽器塾の楽器講師を安定的に確保することができるよう、講師派遣を請け負うことのできる業者にお願いして、訪問希望日に合わせて講師を派遣できる体制を始めた。今後は、より安定して練習環境が整えられるように、地域と学校とをつなぐコーディネーターのような役割を担える専門員などの配置を検討していく。

運営体制図



自治体の現状と課題

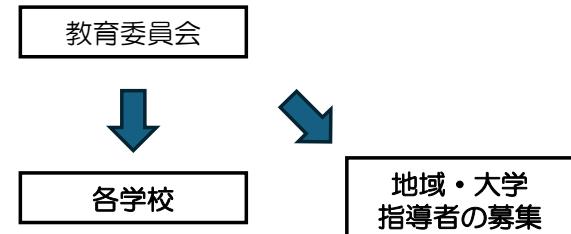
中学校数	6校	生徒数（5/1現在）	4, 262人
運動部活動数	86部	担当課	学校教育課
コーディネーターの人数	0人	市町村の方針	地域連携
運営団体	教育委員会		
地域移行した種目	なし		
地域指導者の人数	0人	地域指導者への謝金の金額	円/時
地域クラブへの参加費	円/月	部活動の休日の活動回数	2回/月
部活動指導員の人数	0人	部活動指導員の報酬	円/時
外部指導者の数	67人	外部指導者への謝金の金額	1, 200円/時

- ・地域連携の取組の現状は、部活動の外部指導者の増員を行い、生徒がよりたくさん専門的指導を受けられるように進めている。
- ・今年度、部活動の外部指導者の数は増員できたが、学校や種目によって差があることが課題である。
- ・部活動指導員の設置、を検討中である。
- ・令和9年度から小学校教諭を対象に中学校の休日の部活動に対する兼職兼業を認める検討中である。
- ・地域展開を進める上での課題は、実際に指導を行う指導者の確保である。

地域移行・地域連携の取組・成果

- ・4月末に、外部指導者を対象にした研修会を行っている。
- ・部活動の外部指導者を増員することで、生徒が専門的指導を受ける機会を増やすことができている。

運営体制図



自治体の現状と課題

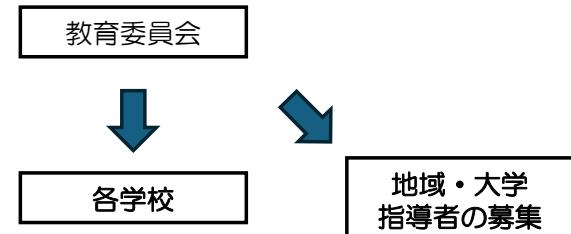
中学校数	6校	生徒数（5/1現在）	4, 262人
文化部活動数	21部	担当課	学校教育課
コーディネーターの人数	0人	市町村の方針	地域連携
運営団体	教育委員会		
地域移行した種目	なし		
地域指導者の人数	0人	地域指導者への謝金の金額	円/時
地域クラブへの参加費	円/月	部活動の休日の活動回数	2回/月
部活動指導員の人数	0人	部活動指導員の報酬	円/時
外部指導者の数	7人	外部指導者への謝金の金額	1, 200円/時

- ・地域連携の取組の現状は、部活動の外部指導者の増員を行い、生徒がよりたくさん専門的指導を受けられるように進めている。
- ・今年度、部活動の外部指導者の数は増員できたが、学校や種目によって差があることが課題である。
- ・部活動指導員の設置、を検討中である。
- ・令和9年度から小学校教諭を対象に中学校の休日の部活動に対する兼職兼業を認める検討中である。
- ・地域展開を進める上での課題は、実際に指導を行う指導者の確保である。

地域移行・地域連携の取組・成果

- ・4月末に、外部指導者を対象にした研修会を行っている。
- ・部活動の外部指導者を増員することで、生徒が専門的指導を受ける機会を増やすことができている。

運営体制図



自治体の現状と課題

中学校数	28 校	生徒数（5/1現在）	11,548 人
運動部活動数	226 部	担当課	学び体験推進課
コーディネーターの人数	85 人	市町村の方針	地域移行
運営団体	豊田市		
地域移行した種目	令和8年9月、現在ある部活動はすべて移行		
地域指導者の人数	832 人	地域指導者への謝金の金額	1,600 円/時
地域クラブへの参加費	0 円/月	部活動の休日の活動回数	4 回/月
部活動指導員の人数	13 人	部活動指導員の報酬	2,050円/時
外部指導者の数	6 人	外部指導者への謝金の金額	2,000円/時

【豊田市の現状】

豊田市では、国のガイドラインを受けて「とよた地域クラブ活動展開プラン」を策定し、令和8年9月から、休日だけでなく平日も含めて学校部活動を地域クラブ活動へ移行する方向で準備を進めている。現在は、指導者の確保を進めるとともに、市を運営主体、地域学校共働本部を実施主体とする体制整備を行いながら、地域全体で子どもの活動を支える仕組みづくりを進めている。

【課題】

平日の地域指導者の確保

地域学校共働本部において事務を行うコーディネーターの確保

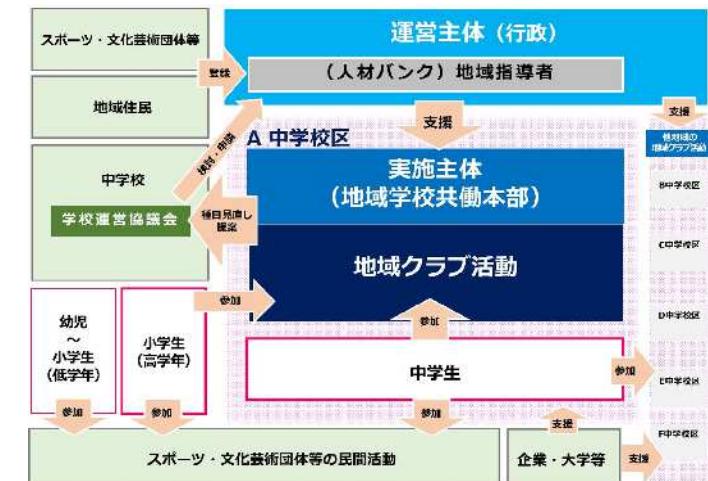
学校管理備品の共用部分の精査や管理方法・消耗品費及び修繕費の予算化

事務用PC、通信環境、冷蔵庫、空調設備などの環境整備

地域移行・地域連携の取組・成果

- 令和3、4年 モデル校にて地域指導者と連携した休日部活動を実施
- 令和5年3月 豊田市こどものスポーツ・文化活動等に関する協議会を設置
- 令和5年4月～市内全28校で地域指導者と連携した休日部活動を実施
- 令和6年4月～地域移行プラン骨子（案）に対する意見聴取（約90団体）
- 令和6年9月 「地域移行プラン骨子」策定
- 令和7年3月 「とよた地域クラブ活動展開プラン」策定・指導者基礎研修（動画研修）を公開・とよた地域クラブ活動人材バンク開設
- 令和7年4月～市長部局に部活動地域展開の専門部署を新設 各地域学校共働本部にコーディネーター（会計年度任用職員）を置いたモデル事業の実施。全校で平日の地域指導者の募集を開始
- 令和7年5月 とよた地域クラブ活動に対応した学校セキュリティへ更新
- 令和7年7月 「とよた地域クラブ活動」の愛称を公募。市内小中学生の投票により「とよクラブ」に決定
- 令和7年9月 とよた地域クラブ活動推進協議会でガイドライン（案）を検討
- 令和7年10月 市内24校でコーディネーター（会計年度任用職員）が勤務開始
- 令和7年11月 とよた地域クラブ活動応援制度創設

運営体制図



自治体の現状と課題

中学校数	28 校	生徒数 (5/1 現在)	11,548 人
文化部活動数	90 部	担当課	学び体験推進課
コーディネーターの人数	85 人	市町村の方針	地域移行
運営団体	豊田市		
地域移行した種目	令和8年9月、現在ある部活動はすべて移行		
地域指導者の人数	146 人	地域指導者への謝金の金額	1,600 円/時
地域クラブへの参加費	0 円/月	部活動の休日の活動回数	4 回/月
部活動指導員の人数	3 人	部活動指導員の報酬	2,050円/時
外部指導者の数	23 人	外部指導者への謝金の金額	2,000円/時

【豊田市の現状】

豊田市では、国のガイドラインを受けて「とよた地域クラブ活動展開プラン」を策定し、令和8年9月から、休日だけでなく平日も含めて学校部活動を地域クラブ活動へ移行する方向で準備を進めている。現在は、指導者の確保を進めるとともに、市を運営主体、地域学校共働本部を実施主体とする体制整備を行なながら、地域全体で子どもの活動を支える仕組みづくりを進めている。

【課題】

平日の地域指導者の確保

地域学校共働本部において事務を行うコーディネーターの確保

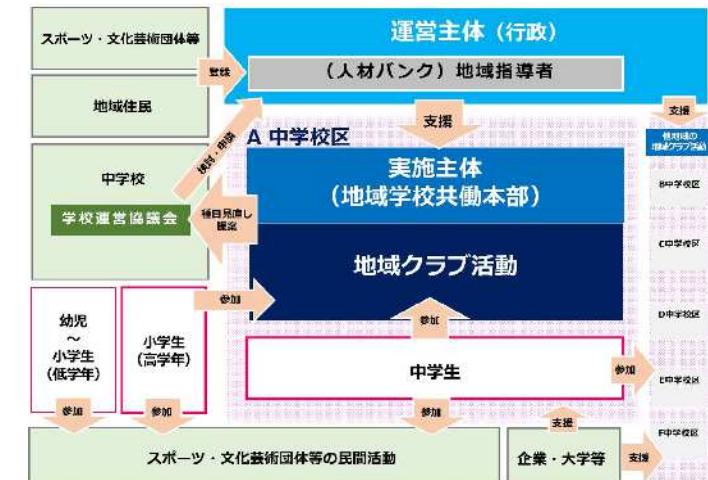
学校管理備品の共用部分の精査や管理方法・消耗品費及び修繕費の予算化

事務用PC、通信環境、冷蔵庫、空調設備などの環境整備

地域移行・地域連携の取組・成果

- ・令和3年4年 モデル校にて地域指導者と連携した休日部活動を実施
 - ・令和5年3月 豊田市こどものスポーツ・文化活動等に関する協議会を設置
 - ・令和5年4月～市内全28校で地域指導者と連携した休日部活動を実施
 - ・令和6年4月～地域移行プラン骨子（案）に対する意見聴取（約90団体）
 - ・令和6年9月 「地域移行プラン骨子」策定
 - ・令和7年3月 「とよた地域クラブ活動展開プラン」策定・指導者基礎研修（動画研修）を公開・とよた地域クラブ活動人材バンク開設
 - ・令和7年4月～市長部局に部活動地域展開の専門部署を新設
各地域学校共働本部にコーディネーター（会計年度任用職員）を置いたモデル事業の実施。全校で平日の地域指導者の募集を開始
 - ・令和7年5月 とよた地域クラブ活動に対応した学校セキュリティへ更新
 - ・令和7年7月 「とよた地域クラブ活動」の愛称を公募。
 - ・令和7年9月 市内小中学生の投票により「とよクラ」に決定
 - ・令和7年10月 とよた地域クラブ活動推進協議会でガイドライン（案）を検討
市内24校でコーディネーター（会計年度任用職員）が勤務開始
 - ・令和7年11月 とよた地域クラブ活動応援制度創設

運営体制図



自治体の現状と課題

中学校数	8 校	生徒数（5/ 1 現在）	5,379人
運動部活動数	1 1 8 部	担当課	学校教育課・スポーツ課
コーディネーターの人数	0 人	市町村の方針	地域移行
運営団体	教育委員会		
地域移行した種目	令和8年度から、全種目の予定		
地域指導者の人数	0 人	地域指導者への謝金の金額	円/時
地域クラブへの参加費	0 ~5,000円/月	部活動の休日の活動回数	2 回/月
部活動指導員の人数	11人	部活動指導員の報酬	1,370円/時
外部指導者の数	16人	外部指導者への謝金の金額	0 円/時



課題

- 中体連の地区大会の主幹となっている競技について、運営をどのように行うか。また、運営の謝礼の財源。
- 市内大会の運営を各競技の協会や連盟に委託予定。大会運営についての人的補助、金銭的補助等。
- 地域クラブ運営への金銭的支援。
- チームの立ち上げ、教員の兼職兼業。

地域移行・地域連携の取組・成果

- 教員に頼らず、持続可能なチーム運営、そして、子どもたちの様々なことにチャレンジしたいという思いを大切に地域展開に取り組んでいる。
- 休日の部活動の廃止により、学校単位で大会への出場をせず、今後は地域移行部活動が大会に参加をしていく。
- 今ある地域のクラブチームの内、部活動ガイドラインを守るチームを「地域移行部活動」、制限を設けずに実施するチームを「地域クラブ」として分け、生徒の思いで、所属する団体を選択できるようにする。

運営体制図

- チーム運営は、地域クラブ（地域移行部活動）。
- 大会運営は、各競技協会、連盟等。
- 教員の休日の活動は、兼職兼業。

自治体の現状と課題

中学校数	8校	生徒数（5/1現在）	5,379人
文化部活動数	不明 部	担当課	学校教育課・文化振興課
コーディネーターの人数	0人	市町村の方針	地域移行
運営団体	教育委員会		
地域移行した種目	令和8年度から、全種目の予定		
地域指導者の人数	0人	地域指導者への謝金の金額	0円/時
地域クラブへの参加費	不明 円/月	部活動の休日の活動回数	2回/月
部活動指導員の人数	6人	部活動指導員の報酬	1,370円/時
外部指導者の数	不明 人	外部指導者への謝金の金額	0円/時

課題

- 指導者の確保。
- 活動場所の確保。
- 活動団体への援助。
- 困窮世帯への金銭的支援。
- 楽器の貸し出し、持ち出し。
- 文化部については、部活動ガイドラインはどこまで適用するのか。吹奏楽連盟等の各連盟が示すのか、文化庁が統一するのか。



地域移行・地域連携の取組・成果

- 教員に頼らず、持続可能なチーム運営、そして、子どもたちの様々なことにチャレンジしたいという思いを大切に地域展開に取り組みを始めた。
- 休日の部活動の廃止により、学校単位でコンクールへの出場をせず、今後は地域クラブ（地域移行部活動）が大会に参加。

運営体制図

- チーム運営は、地域クラブ（地域移行部活動）。
- 教員の休日の活動は、兼職兼業。

自治体の現状と課題

中学校数	10校	生徒数（5/1現在）	5,123人
運動部活動数	135部	担当課	学校教育課
コーディネーターの人数	0人	市町村の方針	地域連携
運営団体	教育委員会		
地域移行した種目	なし		
地域指導者の人数	0人	地域指導者への謝金の金額	円/時
地域クラブへの参加費	円/月	部活動の休日の活動回数	4回/月
部活動指導員の人数	43人	部活動指導員の報酬	1,300円/時
外部指導者の数	3人	外部指導者への謝金の金額	0円/時

【人口減少等の地域全体の課題】

- 人口減少の傾向は、緩やかに進んでいる。市内全体としては、外国人の流入もあり、緩やかな減少だが、一部の学校は10年以内に学年の人数が一桁となってしまうことが予想される。

【現状】

- 中学校の部活動については、部活動指導員を拡充することに努めている。運動部の部活動指導員は年々増加し、令和7年12月現在、43名が登録している。

【課題】

- 地域展開を進めるうえでの課題は、受け皿となる運営体制が不十分なことがある。現在の状態で地域展開をスタートしてしまうと、既存のクラブチームや地域クラブに一定数は流れるが、大多数の生徒の受け皿がなくなると考えている。

地域移行・地域連携の取組・成果

【成果】

- 市の方針を決めていくための取組
令和4年1月から、中学校部活動の地域移行に関する検討会議を定期的に開催し、様々な課題解決に向けて、議論を行っている。
- 運動部の部活動指導員は、令和7年12月現在、43名が登録。人選については、信頼感を保つために市教委で面談をし、慎重に採用。また、小学校教職員からの希望もあり、8名が兼職兼業届を提出して指導に携わっている。
- 部活動指導員には、毎年2月、市教委にて研修を行っているため、充実した指導の成果が報告されている。

運営体制図

■平日

学校（顧問）が中心

- 部活動指導員の拡充

■休日

・学校

学校（顧問）と部活動指導員の連携

- 部活動指導員の拡充

部活動指導員が中心

- 部活動指導員の拡充
- 教職員の登録

部活動指導員の拡充

- 企業スポーツの指導員
- スポーツ協会の指導員
- 募集の拡大（市の広報等）

・基礎

地域クラブ活動の推進（基礎）

- 総合型地域スポーツクラブ（つるしろ、いっしき、きらスポーツクラブ）
- チャレンジ未来塾（生涯学習課）
- 西尾市地域クラブ運営本部（仮称）が、地域クラブの運営を担う。

・発展

クラブチームの活動の推進（発展）

自治体の現状と課題

中学校数	10校	生徒数（5/1現在）	5,123人
文化部活動数	33部	担当課	学校教育課
コーディネーターの人数	0人	市町村の方針	地域連携
運営団体	教育委員会		
地域移行した種目	なし		
地域指導者の人数	0人	地域指導者への謝金の金額	0円/時
地域クラブへの参加費	円/月	部活動の休日の活動回数	4回/月
部活動指導員の人数	5人	部活動指導員の報酬	1,300円/時
外部指導者の数	0人	外部指導者への謝金の金額	0円/時

【人口減少等の地域全体の課題】

- 人口減少の傾向は、緩やかに進んでいる。市内全体としては、外国人の流入もあり、緩やかな減少だが、一部の学校は10年以内に学年の人数が一桁となってしまうことが予想される。

【現状】

- 中学校の部活動については、部活動指導員を拡充することに努めている。文化部の部活動指導員は、令和7年12月現在、5名が登録している。茶道部の部活動指導員は、平日の指導を担っている。

【課題】

- 地域展開を進めるうえでの課題は、受け皿となる運営体制が不十分なことである。とくに文化部では、吹奏楽・オーケストラ部の受け皿となる組織がないので、部活動指導員の拡充を図っている。

地域移行・地域連携の取組・成果

【成果】

- 市の方針を決めていくための取組
令和4年1月から、中学校部活動の地域移行に関する検討会議を定期的に開催し、市関係者とともに様々な課題解決に向けて、議論を行っている。
- 文化部の部活動指導員は、令和7年12月現在、5名が登録している。人選については、信頼感を保つために市教委で面談をし、慎重に採用している。
- 部活動指導員には、毎年2月、市教委にて研修を行っているため、充実した指導の成果が報告されている。

運営体制図

■平日

学校（顧問）が中心

- 部活動指導員の拡充

■休日

・学校

学校（顧問）と部活動

指導員の連携

- 部活動指導員の拡充

部活動指導員が中心

- 部活動指導員の拡充
- 教職員の登録

部活動指導員の拡充

- 地元企業の指導員
- 文化協会の指導員
- 募集の拡大（市の広報等）

・基礎

地域クラブ活動の推進（基礎）

- 総合型地域クラブ
- チャレンジ未来塾（生涯学習課）
- 西尾市地域クラブ運営本部（仮称）が、地域クラブの運営を担う。

・発展

クラブチームの活動の推進（発展）

自治体の現状と課題

中学校数	3校	生徒数（5/1現在）	1, 980人
運動部活動数	44部	担当課	学校教育課 生涯学習科 - ツ課 (スポーツ振興係)
コーディネーターの人数	0人	市町村の方針	地域連携→移行
運営団体	学校教育課（学校）		
地域移行した種目	○		
地域指導者の人数	検討中	地域指導者への謝金の金額	検討中
地域クラブへの参加費	検討中 円/月	部活動の休日の活動回数	3～4回/月
部活動指導員の人数	4人	部活動指導員の報酬	1, 510円/時
外部指導者の数	16人	外部指導者への謝金の金額	4, 000円/回

【人口減少等の地域全体の課題】

生徒数は、学年により微増したり微減したりしている。将来的には減っていくだろうが、近い将来はおおよそ現状の人数が維持される見通し。

【地域移行の取組の現状】

・生涯スポーツ・生涯学習の視点に立ち、生徒たちが生涯にわたってスポーツや文化的活動に親しむことができるようとする。

・知立市で競技や文化的活動ごとに活動拠点をつくり、知立市の子どもを、知立市に携わる大人で支えていく。

→上記理念の下、R5年度～弓道部・剣道部・ソフトボール部で拠点校部活動実施

R6年度～弓道部で知立市合同部活動実施

R7年度～弓道部に加え、剣道部・ソフトボール部・野球部・卓球部・陸上部で合同部活動実施

【地域移行を進める上での課題】

・指導者への謝礼、運営費等予算確保 ・学校間をまたぐ連絡体制 ・指導者の確保 ・理念の浸透 等

運営体制図



地域移行・地域連携の取組・成果

- ・教師の異動によらない、継続指導が可能なシステム構築について話し合うことができた。
- ・在籍校にない種目の部活動に参加することができるようになり、喜びの声をいただけた。
- ・「知立の子を知立に携わる大人（地域）で育てる」理念が徐々に広がった。
- ・地域スポーツ団体から、「ぜひ中学生を受け入れたい」と声が上がってきていた。（空手）
- ・小学校教員の部活動指導に対する兼職兼業を認めた。

自治体の現状と課題

中学校数	3校	生徒数（5/1現在）	1,980人
文化部活動数	19部	担当課	学校教育課 文化課 (文化振興係)
コーディネーターの人数	0人	市町村の方針	地域連携→移行
運営団体	学校教育課（学校）		
地域移行した種目	○		
地域指導者の人数	検討中	地域指導者への謝金の金額	検討中
地域クラブへの参加費	検討中 円/月	部活動の休日の活動回数	3～4回/月
部活動指導員の人数	0人	部活動指導員の報酬	1,510円/時
外部指導者の数	11人	外部指導者への謝金の金額	4,000円/回

【人口減少等の地域全体の課題】

生徒数は、学年により微増したり微減したりしている。将来的には減っていくだろうが、近い将来はおおよそ現状の人数が維持される見通し。

【地域移行の取組の現状】

・生涯スポーツ・生涯学習の視点に立ち、生徒たちが生涯にわたってスポーツや文化的活動に親しむことができるようとする。

・知立市で競技や文化的活動ごとに活動拠点をつくり、知立市の子どもを、知立市に携わる大人で支えていく。

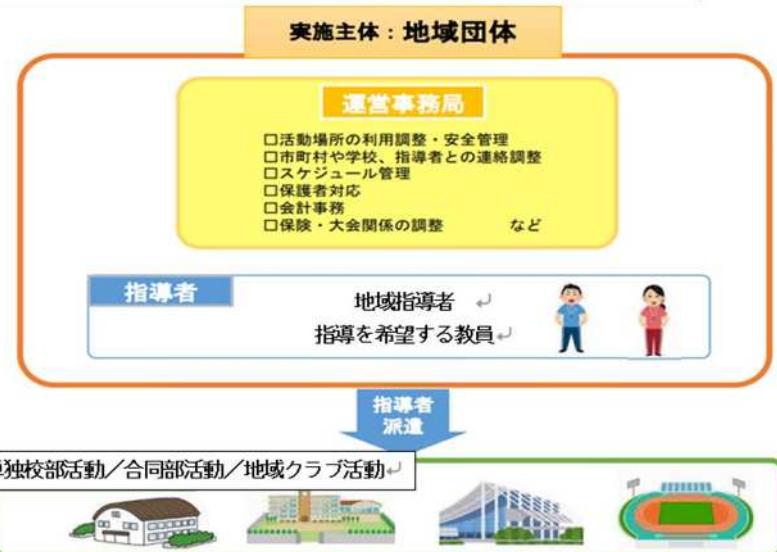
→上記理念を掲げたものの、文化部については具体的な取り組みはできない。

先日、吹奏楽部の地域連携について各校顧問と協議をしたところである。

【地域移行を進めるまでの課題】

・指導者への謝礼、運営費等予算確保 ・学校間をまたぐ連絡体制 ・指導者の確保 ・理念の浸透 等

運営体制図



地域移行・地域連携の取組・成果

- ・教師の異動によらない、継続指導が可能なシステム構築について話し合うことができた。
- ・「知立の子を知立に携わる大人（地域）で育てる」理念が徐々に広がった。
- ・外部指導者をできるだけ招聘し、顧問とともに生徒の指導にあたる方が増えた。
- ・吹奏楽について、楽器の保管・運搬・管理・練習場所等の課題が山積しており、地域展開の見通しがもてない。

自治体の現状と課題

中学校数	2校	生徒数（5/1現在）	1523人
運動部活動数	31部	担当課	学校経営G
コーディネーターの人数	0人	市町村の方針	地域連携
運営団体	高浜市教育委員会		
地域移行した種目	なし		
地域指導者の人数	0人	地域指導者への謝金の金額	0円/時
地域クラブへの参加費	0円/月	部活動の休日の活動回数	4回/月
部活動指導員の人数	0人	部活動指導員の報酬	0円/時
外部指導者の数	14人	外部指導者への謝金の金額	1100円/時

- ・人口減少はなだらかであり、一つの部活が人数で成り立たないということはない。
- ・外部指導者の予算を十分に確保したので、今後は部活動指導員を導入していけたらと考えている
- ・小さな市であり、多数クラブがあるわけでもなく、指導の担い手があるわけでもない。地域の方に協力を求めながら活動していくことはできても、地域に移行していくことが難しい。

地域移行・地域連携の取組・成果

- ・外部指導者の予算を徐々に上げることができて、指導者の方々が休日に指導に加わってくださる時間が増えている。

運営体制図

特になし

自治体の現状と課題

中学校数	2校	生徒数（5/1現在）	1523人
文化部活動数	10部	担当課	学校経営G
コーディネーターの人数	0人	市町村の方針	地域連携
運営団体	高浜市教育委員会		
地域移行した種目	なし		
地域指導者の人数	0人	地域指導者への謝金の金額	0円/時
地域クラブへの参加費	0円/月	部活動の休日の活動回数	4回/月
部活動指導員の人数	0人	部活動指導員の報酬	0円/時
外部指導者の数	2人	外部指導者への謝金の金額	1100円/時

- ・人口減少はなだらかであり、一つの部活が人数で成り立たないということはない。
- ・外部指導者の予算を十分に確保したので、今後は部活動指導員を導入していけたらと考えている。
- ・小さな市であり、指導の担い手がない。地域の方に協力を求めながら活動していくことはできても、地域に移行していくことが難しい。また、地域移行した際に場所や道具の取り扱いについてどのようにしていくのかも課題である。

地域移行・地域連携の取組・成果

- ・外部指導者の予算を徐々に上げることができて、指導者の方々が休日に指導に加わってくださる時間が増えている。

運営体制図

特になし

自治体の現状と課題

中学校数	4校	生徒数（5/1現在）	1759人
運動部活動数	45部	担当課	学校教育課
コーディネーターの人数	1人	市町村の方針	地域展開
運営団体	みよしクラブ（みよし市教育委員会）		
地域移行した種目	カヌー、柔道、弓道、その他種目については学校による		
地域指導者の人数	8人	地域指導者への謝金の金額	1600円/時
地域クラブへの参加費	検討中 円/月	部活動の休日の活動回数	4~6回/月
部活動指導員の人数	5人	部活動指導員の報酬	1600円/時
外部指導者の数	46人	外部指導者への謝金の金額	2000円/回

・方針について

中学校にある既存の部活動において、休日（土・日・祝日）に行われる活動を令和7（2025）年度末までにみよしクラブへ地域展開する。

・地域展開の方向性

みよしの子どもたちをみよし市に携わる人たちで共に育てていくことでサステナブルな地域移行としていく。

・人口減少等の地域全体の課題

10年先までの児童生徒数は、多少減少するものの、ほぼ横ばいで推移すると予想される。

・地域移行の取組の現状

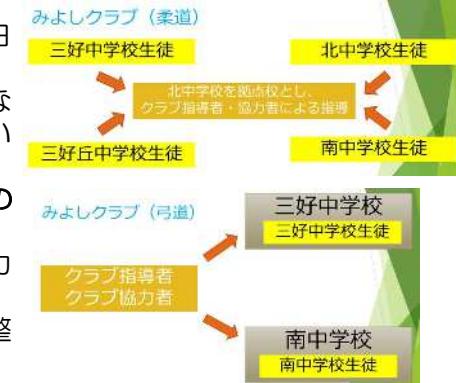
完全に地域展開の形ができる種目は全体の40%程度である。

・地域移行進める上での課題

人材の確保、指導者の教育モラル（教育活動であるという意識）など

地域移行・地域連携の取組・成果

- 中学校にある既存の部活動について、休日の地域展開を進めている。
- 生徒・保護者にとって、大きな変化がない形での地域展開を進めることができている。
- みよしクラブへの地域展開の形は各種目の実情に応じた形としている。
- 指導者への研修について、提携大学に協力を依頼し、研修制度が確立できた。
- 登録や報酬の支払いなど、システム的な整備の必要性が現在の課題である。



運営体制図



自治体の現状と課題

中学校数	4校	生徒数（5/1現在）	1759人
文化部活動数	10部	担当課	学校教育課
コーディネーターの人数	1人	市町村の方針	地域展開
運営団体	みよしクラブ（みよし市教育委員会）		
地域移行した種目	吹奏楽部、文化的活動関連種目（芸術部等）		
地域指導者の人数	6人	地域指導者への謝金の金額	1600円/時
地域クラブへの参加費	検討中 円/月	部活動の休日の活動回数	4回/月
部活動指導員の人数	2人	部活動指導員の報酬	1600円/時
外部指導者の数	20人程度	外部指導者への謝金の金額	2000円/回

・方針について

中学校にある既存の部活動において、休日（土・日・祝日）に行われる活動を令和7（2025）年度末までにみよしクラブへ地域展開する。

・地域展開の方向性

みよしの子どもたちをみよし市に携わる人たちで共に育てていくことでサステナブルな地域移行としていく。

・人口減少等の地域全体の課題

10年先までの児童生徒数は、多少減少するものの、ほぼ横ばいで推移すると予想される。

・地域移行の取組の現状

完全に地域展開の形ができるいる種目は全体の40%程度である。

・地域移行進める上での課題

人材の確保、指導者の教育モラル（教育活動であるという意識）など

地域移行・地域連携の取組・成果

- 中学校にある既存の部活動について、休日の地域展開を進めている。
- みよしクラブへの地域展開の形は各種目の実情に応じた形としている。
- 吹奏楽部の地域展開においては、みよし市吹奏楽団（シンフォニックウインズみよし）と連携している。（委託）
- その他文化的活動については、生涯学習推進課、文化協会と連携している。
- 市が提携している大学と協力し、指導者研修会を実施した。



運営体制図



自治体の現状と課題

中学校数	3校	生徒数（9/10現在）	1507人
運動部活動数	38部	担当課	学校教育課
コーディネーターの人数	0人	市町村の方針	地域展開（地域移行）
運営団体	教育委員会		
地域移行した種目	○		
地域指導者の人数	0人	地域指導者への謝金の金額	円/時
地域クラブへの参加費	円/月	部活動の休日の活動回数	4回/月
部活動指導員の人数	28人	部活動指導員の報酬	1500円/時
外部指導者の数	0人	外部指導者への謝金の金額	円/時

- ・人口減少等全国的な問題については、当町は企業誘致やコンパクトな市街地整備等により、若い世代の転入が進み、人口は増加してきた。
- ・人口が増加してきた当町においても、学校部活動の地域展開に向けた地域連携を進めてきた。令和7年度当初26人であった部活動指導員は現在2人増えて28人となり、顧問と連携して休日の部活動指導にあたっている。また、競技人数の少ない剣道部は、9月から3中学校が集まって合同で活動している。ただし、大会は令和8年夏までは中学校毎に参加する予定である。
- ・地域展開を進める上での課題は、地域クラブの創設に向けた体制整備である。指導者、活動場所、費用、保険等整備していく必要があり、学校教育課と文化スポーツ課とが連携して進めていく必要がある。

地域移行・地域連携の取組・成果

- ・全ての部活動に部活動指導員を配置することを目指し、人材の確保に努め、38部活動において28人の部活動指導員を配置し、生徒への指導に当たるとともに、教員の負担軽減にもつながっている。
- ・地域クラブへの展開に向けて、3中学校の部活動を段階的に合同での活動へと移行していく予定であり、剣道部において9月から休日合同部活動へと移行することができた。令和8年夏までは、休日の活動は合同、大会は中学校毎での参加と決まっているが、幸田町としては地域展開に向けた大きな一歩を踏み出すことができた。

運営体制図

- ・検討中

自治体の現状と課題

中学校数	3校	生徒数（9/10現在）	1507人
文化部活動数	8部	担当課	学校教育課
コーディネーターの人数	2人	市町村の方針	地域展開(地域移行)
運営団体	教育委員会、幸田町文化振興協会		
地域移行した種目	○		
地域指導者の人数	人	地域指導者への謝金の金額	円/時
地域クラブへの参加費	0円/月	部活動の休日の活動回数	4回/月
部活動指導員の人数	2人	部活動指導員の報酬	1500円/時
外部指導者の数	4人	外部指導者への謝金の金額 (実演実技等3500円、謝金1500円)	5000円/時

- ・人口減少等全国的な問題については、当町は企業誘致やコンパクトな市街地整備等により、若い世代の転入が進み、人口は増加してきた。
- ・人口が増加してきた当町においても、学校部活動の地域展開に向けた地域連携は段階的に進めている。幸田中、北部中の吹奏楽部と南部中の弦楽部の指導に委託先である幸田町文化振興協会が中心となって指導者を配置し、中学生への指導をしている。また、それとは別に、部活動指導員を2人配置している。
- ・課題としては、活動場所の確保や楽器の運搬、活動場所までの生徒の移動などがあるが、地域展開に向けて更に進めていくためには今以上に予算の確保が必要であり、大きな課題となっている。また、地域展開に向けた町としての体制整備も大きな課題である。

地域移行・地域連携の取組・成果

- ・中学校文化部活動を地域クラブ活動へ展開する過程として、休日における活動に指導者を派遣し、生徒の技術向上を図ると共に、教員の時間外勤務の軽減を図ることを目的として実施した。
- ・地域における文化活動に成果をあげている団体と連携することにより、質の担保をした上で効率化を図ることができた。専門的な指導者、現役の音楽家(演奏家)を派遣することで、生徒の技術向上、顧問の指導スキル向上を図ることができた。更に、昨年度以上に、各校顧問と委託先担当や外部指導者との連携が円滑になり、より充実した活動を行っている。

運営体制図

